
世界の流れから—ICAによる連携の取組み

国立公文書館 統括公文書専門官室 公文書専門員

中山 貴子 なかやま・たかこ

1. はじめに

国際公文書館会議（International Council on Archives、以下「ICA」という。）は、効率的な記録管理並びに世界のアーカイブズ遺産の保護及び利用を図ることを目的に1948年に設立された、非営利の国際非政府組織である。記録及びアーカイブズに関わる機関及び個人を会員としており、その地域的広がり、199の国・地域に及ぶ¹。

ICAは、自らの存在感を高め、またアーカイブズ関係者の要望がより社会に反映されるよう、組織内外との連携を重視し、様々なレベルで具体的な取組みを重ねている。例えば、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）情報・コミュニケーション局は、2015年の採択を目指し、現在記録遺産に関する勧告案策定に取り組んでいるが、ICAは当初からこの策定プロセスに参加している²。また、2013年にはユネスコの依頼により、イギリスの非営利組織インターナショナル・レコード・マネジメント・トラストと共同で、デジタル保存分野のモデル活動計画を提言した³。ICAでは、こうした連携を通じ、適切な記録管理を世界的に推進することができるとしている。

とは言え、国際的な組織における連携のあり方は、漠然としてイメージしづらいかもしれない。そこで本稿では、ICAにおけるより身近な連携の取組み事例として、日本からも多数の参加があった「国際アーカイブズの日2014」プロジェクトを紹介することとしたい。

2. ICA 地方自治体文書館セクション (SLMT)と「国際アーカイブズの日2014」プロジェクト

2.1 SLMTについて

地方自治体文書館セクション（Section of Local, Municipal and Territorial Archives、以下「SLMT」という。）は、現在12あるICAのセクションの一つである。セクションは、ICAの下部機関の一つで、専門的関心を共有する、又は類似の専門的活動に携わるICA会員が、会員相互の協力強化等を目的として組織するものである。アーカイブズ界の主要な問題点について、議論や研究を促し、そこで提示された解決策を発信することができるよう、各セクションは独自の規約、予算及び運営委員会を持つことが認められており、ICAプログラム委員会と協力して策定した活動計画に基づき、各種プロジェクトを単独又は共同で実施する。セクションへの参加は任意であり、ICA会員は、機関会員であるか個人会員であるかを問わず、セクションの会員となることができる。会員が参加することのできるセクション数に上限は設けられていない。

SLMTは、ICA執行委員会の推薦に基づき、1985年にルクセンブルグにおいて設立された地方自治体文書館セクション（Section of Municipal Archives〈SMA〉）を前身とする。SMAは、1988年にICAの承認を受け、正式にICAの下部機関となった。その後の活動拡大を受け、より会員の実態を反映したものとすべく、2010年に現在の名称に変更した。地方自治体（municipal）だけでなく、地方（local）や地域（territorial）のアーカイブズを中心に、約

170の会員を擁するに至っている。SLMT会員の多くは、ICA憲章に定めるカテゴリーC会員（地方公文書館・教育機関等）の地位を持つ。

規約が定めるSLMTの目的は以下のとおりである⁴。

- ・世界中の地方、地方自治体及び地域のアーカイブズの間で、専門的・学術的協力を促進する。
- ・世界中の地方、地方自治体及び地域のアーカイブズに関する情報を収集し、発信する。
- ・地方、地方自治体及び地域のアーカイブズの利益を代表する。
- ・地方、地方自治体及び地域のアーカイブズとICAの組織との連携を図る。

2.2 ICAと「国際アーカイブズの日」

ICAは、2007年の年次総会において、翌年迎える創設60周年を記念して、設立記念日である6月9日を「国際アーカイブズの日」と定め、記録やアーカイブズに対する社会の関心を高める機会とすることにした。アーカイブズに対するイメージが曖昧であることが、記録やアーカイブズの管理に充てられるべき資金や人材の確保に難をもたらしており、関係者が声を一つにしてアーカイブズとそこに携わる人々への支援を訴える必要があると考えられたのである。

類似の記念日として、ユネスコが2005年に設定した「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）があった。これは、視聴覚資料の重要性とその保護を呼びかけることを目的としたもので、映画や映像を保存することの重要性を訴えた「動的映像の保護及び保存に関する勧告」（1980年）の採択日に由来している。しかし、アーカイブズ資源の多様性に立脚するICAは、視聴覚資料に限らず、広くアーカイブズ一般に対する関心を呼び覚ますための包括的な記念日を、新たに設けることにしたのである。

ICAでは、「国際アーカイブズの日」を通じて以下の目的を達成できるとしている⁵。

- ・人々の権利やアイデンティティの拠り所としてのアーカイブズの重要性を知ってもらう。
- ・政策決定者に、グッド・ガバナンス（良き統治）

を実現する上で、適切な記録管理が有効であることを認識してもらう。

- ・官民を問わず、アーカイブズを長期保存し、アクセスを整備する必要性を知ってもらう。
- ・記録やアーカイブズのイメージを向上させ、それらの知名度を世界的に高める。

2008年6月9日に、第一回「国際アーカイブズの日」を実施して以来、ICAは会員に対し、この日に展示、見学会、講演会、会議、キャンペーン活動等の記念行事を開催するよう呼びかけてきた。これに呼応して企画されるイベントの実施報告は年々増加しており、ICA会員の間で「国際アーカイブズの日」の意義が共有されつつあることが見て取れる。2013年には公式の広報用ポスターが作成され、そこで採用されたデザインが、その後も「国際アーカイブズの日」のシンボル・ロゴとして使用されている⁶。



「国際アーカイブズの日」公式ポスター（英語版）

2.3 SLMTの「国際アーカイブズの日2014」プロジェクト

SLMTでは、「国際アーカイブズの日」にセクション全体で取り組むことを、2011年から検討してきた。SLMT会員の中には、「国際アーカイブズの日」が設定される以前から、国又は地方自治体レベルで設けられた「アーカイブズの日」に記念イベントを行っているところがあり、ICAの設定した6月9日を、まずSLMT会員に対して強くアピールする必要性が認識されていたからである⁷。当初は、セクション名義で祝賀メッセージを作成し、フェイスブック等のソーシャルメディアを通

じて発信する、広報ポスターを制作してSLMT会員に配布するといった案が出された。

取組みの具体的な枠組みが固まり、記念ウェブサイトを作成し、アーカイブズの画像とその解説文を広く募って掲載することに決まったのは、2014年1月である。応募画像の中から最優秀画像を選び表彰することも検討されたが、画像は各館を代表する唯一無二のものであり、優劣をつけることには馴染まないとの理由から、コンペ方式は見送られた⁸。サイトは「国際アーカイブズの日」当日に立ち上げられ、6月末日まで期間限定で公開されることとなった。

SLMTは、まずSLMT会員に、続いて専門職団体セクション（Section of Professional Associations〈SPA〉）を中心としたICA会員に対し、プロジェクトへの参加を呼びかけた。参加者は下記の応募要項に従い、画像等をSLMTの担当者まで送付することとされた。

- ・アーカイブズ所在地に関係する所蔵資料のjpeg画像（450×450ピクセル以下）
- ・画像に添える、以下の2種類の短い文章（使用言語の指定なし）
 - (1) 資料の簡単な解説
 - (2) 「国際アーカイブズの日」を祝うメッセージ

応募の出足は鈍かったものの、6月9日が近づくにつれて投稿も増えていき、「国際アーカイブズの日」当日、記念サイトはつつがなく立ち上げられた⁹。これまでにSLMTの会員数をはるかに上回る427のアーカイブズから、様々な画像が寄せられており、所蔵資料の画像から過去の「アーカイブズの日」記念イベントのスナップショットまで、バラエティに富んだものとなっている。これらの画像を特集したページへは、トップページ右上の「View Photos」から進むことができる。なお、資料等の画像は、当該ページにアクセスする度、無作為に並び替えて表示されるので注意されたい¹⁰。

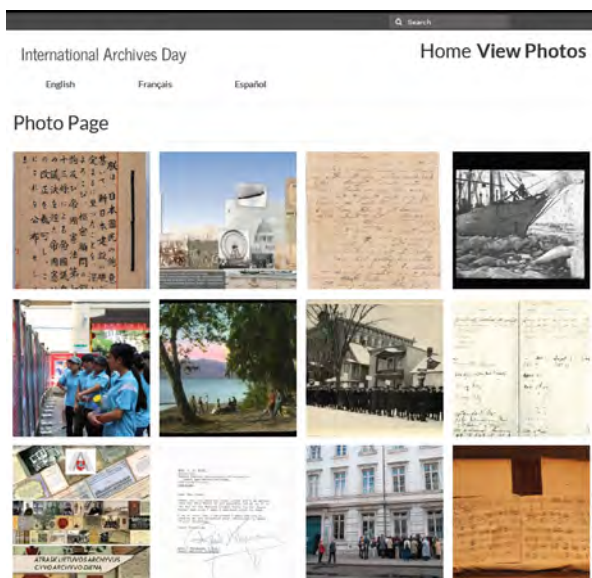


「国際アーカイブズの日2014」記念サイトのトップページ

このプロジェクトに対するアーカイブズ界の反応はSLMTの予想を上回るものであり、サイトの公開期限直前まで投稿があるほどであった。また、教育関係者からは、アーカイブズ学習の資料として好適との声が多く寄せられたという。そこでSLMTは急遽予定を変更し、公開終了予定日後もサイトを継続させ、引き続き投稿を受け付けることにした。少なくとも2014年内はこのまま公開を続けるということである。

2.4 日本のアーカイブズ界の反応

「国際アーカイブズの日2014」プロジェクトに、日本からは当館を含め、10のアーカイブズが参加した（2014年8月末日時点）¹¹。当館を除けば、いずれのアーカイブズもICAの会員資格を直接には持っていない。当館は、SLMTから国内のアーカイブズ機関に対するプロジェクト周知の依頼を受けた後、直ちに応募要項の細部を確認し、館ウェブサイト等を通じて国内関係機関に協力を呼びかけた。この類のICAプロジェクトは前例がなく、また画像送付締切まで比較的時間が短かったことを考慮すれば、これは日本のアーカイブズが関与した国際的連携の成功事例と言えるのではないだろうか。



「国際アーカイブズの日2014」記念サイトの資料画像ページ

日本から多くの参加があったことの要因としては、画像に添える資料解説に関して使用すべき言語の指定がなく、日本語での記述が認められていたことが大きいだろう。実はSLMTとしては、プロジェクトの国際的な性格が強調されるよう、それぞれのアーカイブズにおける作業言語による資料解説を歓迎していた¹²。しかしオリジナルの募集要項には言語に関する明確な指示がなかったため、多くのアーカイブズは、ICAの作業言語であ

る英語やフランス語、そしてスペイン語で投稿してくることとなり、この点についてはSLMTの企画意図は十分に満足されなかったようである。こうした中、日本語の使用が認められたことは、サイトに地方色豊かな演出を施すのに役立つ以上に、国際的なプロジェクトの敷居を低くし、日本のアーカイブズの参加を促す効果があったと言えるだろう。

3. おわりに

SLMTは、「国際アーカイブズの日2014」プロジェクトが好評であったことを受け、2015年にも同様のプロジェクトを実施することを検討している。実施に当たっては、応募要項で画像の保存形式を指定したり、外国語の応募メールがサーバーに撥ねられないようにする等、今年のプロジェクトで得た教訓が活かされる見込みだ。また、より多くの参加者を得るため、募集期間を今年よりも長く設定し、2015年初春にも募集告知することが予定されている。次のプロジェクトでは、今年を上回る数の参加者が日本から出ることを期待するとともに、これを契機として日本のICA会員一特にC会員一が増えることを願う次第である。

¹ An introduction to our organization. <http://www.ica.org/102/about-ica/an-introduction-to-our-organization.html> (アクセス：2014年9月7日)

² David A. Leitch. “Unesco partnership: latest developments.” *Flash* 28 (2014). <http://www.ica.org/16290/flash/flash-august-2014n28.html> (アクセス：2014年9月7日)

³ David A. Leitch. “Renewed partnership with the International Records Management Trust pays early dividends.” *Flash* 26 (2013). <http://www.ica.org/14731/flash/flash-july-2013n26.html> (アクセス：2014年9月7日)

⁴ About Local, Municipal and Territorial Archives. <http://www.ica.org/2932/about-section-of-local-municipal-and-territorial-archives-slm/2932/about-section-of-local-municipal-and-territorial-archives-slm.html> (アクセス：2014年9月7日)

⁵ About the International Archives Day. <http://www.ica.org/1561/international-archives-day/about-the-international-archives-day.html> (アクセス：2014年9月7日)

⁶ 「国際アーカイブズの日2013」ポスターは、英語、フランス語、スペイン語で用意されている。いずれも下記サイトにて入手可能である。<http://www.ica.org/14300/international-archives-day/the-international-archives-day-in-2013.html> (アクセス：2014年9月7日)

⁷ International Council on Archives Section for Local, Municipal and Territorial Archives. “Minutes of the Meeting of the Steering Committee Held at Shanghai.” Number 1/2011, p. 8 [2012か].

⁸ Mies Langelaar. “International Archives Day 2014 with the Section of Local, Municipal and Territorial Archives.” *Flash* 28 (2014). <http://www.ica.org/16290/flash/flash-august-2014n28.html> (アクセス：2014年9月7日)

⁹ International Archives Day. <http://www.internationalarchivesday.org/wordpress/> (アクセス：2014年9月7日)

¹⁰ SLMTによれば、アクセスする度に資料画像の順序を入れ替えて表示することで、画像間に特定の序列がないことを示している。

¹¹ 当館以外の9機関は以下のとおりである。東京都公文書館、福井県文書館、京都府立総合資料館、佐賀県公文書館、沖縄県公文書館、久喜市公文書館、上田市マルチメディア情報センター、太宰府市公文書館、北谷町公文書館。

¹² 前掲Mies Langelaar (2014)。